

献 辞

小杉修二先生は、2014年11月に古希を迎えられ、15年3月末をもって駒澤大学を定年退職されます。

小杉先生は、東京教育大学文学部東洋史学専攻科を卒業後、同大学大学院文学研究科の修士課程を修了し、東京大学大学院人文科学研究科博士課程に進学されました。同大学院を1974年3月に満期退学後、東京大学東洋文化研究所助手、東海大学文学部助教授を経て、1982年4月に駒澤大学経済学部にも助教授として着任されました。1988年4月には教授となり、34年の長きにわたり駒澤大学と経済学部の発展に寄与されてきました。小杉先生は、着任以来、中国経済論を一貫して担当されてきました。経済学部の特色の1つであった各国経済論に関する教育を充実させるべく、奮闘されてこられたことと思います。

その間、1995年4月から97年3月まで第2部経済学科主任、2005年4月から7年3月までは経済学部長を勤められ、学部運営にも貢献されてきました。学部長の時に現代応用経済学科の設置を準備され、2007年4月に現代応用経済学科のスタートへとこぎつけることができました、新たな3学科体制への経済学部の発展を生み出すことにご尽力いただいたことに感謝申し上げる次第です。

小杉先生は、長年にわたり中国経済と地球温暖化について研究されてきました。中国研究の面では、多くの共著や論文を発表された後に、ご著書『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義—』（龍溪書舎）を上梓されています。先生はこれのご著書によって駒澤大学で1990年3月に経済学博士の学位を取得されています。その後、研究テーマを地球温暖化問題へと広げられました。2010年以降、最近に至るまで地球温暖化に関して6本の論文を書かれています、ご本人の弁では「やっとその道筋が見えたところ」であるということです。近年はこの地球温暖化の研究に意を注がれ、「何としても解決策を見出そうと研究して」こられました、その解決の道筋を見出すまでに至ったその研究上のご努力に敬意を表したいと思います。

小杉先生はまだお元気でお得意のテニスなどで大いに身体を鍛えられておられます。一緒にテニスをさせていただいたことがあります、パワフルでありかつ巧みな戦術で圧倒されたことを覚えています。テニス同様に、力と技を駆使してさらに研究に勤しまれることでしょう。そのためにもご健康に留意されて、今後ますます研究を進展させ、多くの研究成果を世に問い、私たち後進を導いていただきますよう祈念いたします。

経済学部長 小 栗 崇 資